神奈川の知的資源

神奈川県内には、大学をはじめ、国や民間の研究所などが多く立地しており、その豊かな人材により、まさに神奈川は知的資源の宝庫となっています。当センターにおいても、県内の大学・研究所等の方々とは、引き続き協力・連携関係を深めていきたいと考えています。

本誌では、毎号、県内の大学で活躍されている研究者及び大学が所有する施設を紹介しています。今号では、次の大学からの研究者及び博物館を紹介いたします。

［神奈川の研究者紹介］

川崎市立看護大学　廣川 聖子氏、松田 有子氏

上智大学短期大学部　宮崎 幸江氏、狩野 晶子氏

湘北短期大学　加藤 美樹雄氏、小笠原 大輔氏

総合研究大学院大学　渡辺 佑基氏、木下 充代氏

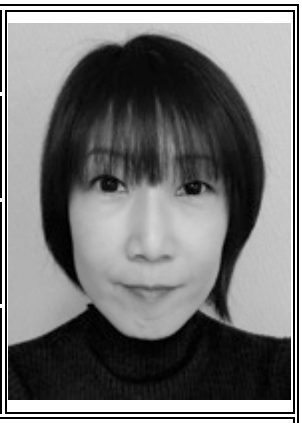
［神奈川の大学博物館・美術館等の紹介］

明治大学平和教育登戸研究所資料館

【横浜みなとみらい21地区の風景】

寄稿いただいた大学の方々に、この場を借りて改めて感謝申し上げます。

神奈川の研究者紹介



氏　名	廣川　聖子（ひろかわ　せいこ）
現　職	川崎市立看護大学 看護学部 精神看護学領域　教授 川崎市立看護大学 研究・研修センター　センター長
主な経歴	聖路加看護大学（現 聖路加国際大学）看護学研究科博士後期課程修了　博士（看護学）
専攻分野・研究テーマ	精神看護、地域精神保健、自殺予防、アウトリーチ
主要業績（これまで発表した著書、論文、行政委員の経験等）	廣川聖子,松本俊彦,勝又陽太郎 他. 死亡前に精神科治療を受けていた自殺既遂者の心理社会的特徴 心理学的剖検による調査. 日本社会精神医学会雑誌. 2010;18(3):341-351 Hirokawa S, Matsumoto T, Katsumata Y, et al. Psychosocial and psychiatric characteristics of suicide completers with psychiatric treatment before death: a psychological autopsy study of 76 cases. Psychiatry and Clinical Neurosciences. 2012; 66(4):292-302 Hirokawa S, Kawakami N, Matsumoto T, et al. Mental disorders and suicide in Japan: a nation-wide psychological autopsy case-control study. Journal of Affective Disorders. 2012;140(2):168-75 廣川聖子,大山早紀子,大島巌 他. 生活保護受給者自立支援事業における行政と民間との連携;今後の地域精神保健アウトリーチ支援に必要な技術に関する検討. 医療と社会. 2013; 22(4):343-357 廣川聖子,松本俊彦,勝又陽太郎 他. 精神科治療を受けていた自殺既遂者の心理社会的特徴:心理学的剖検による 76 事例の検討. 精神神経学雑誌. 2013; 115(9):923-932
神奈川県との関わり	川崎市立看護大学は、公益財団法人 川崎市産業振興財団 ナノ医療イノベーションセンター（iCONM）が代表を務める研究プロジェクト「レジリエント健康長寿社会の実現を先導するグローバルエコシステム形成拠点（通称 CHANGE）」に参画し、医学、工学、県内企業等と連携しながら看護職の負担軽減に向けた取り組みを進めています。
メッセージ	人とのつながりが、こころの健康度を高めることにつながると考えています。自殺予防に関する研究に取り組んでいますが、人とのつながりを軸にした予防対策について、これからも考えていきたいと思っています。
連 絡 先	川崎市立看護大学 看護学部 〒212-0054　神奈川県川崎市幸区小倉 4-30-1 電話：044-587-3500（代表）　E-mail：hirokawa-s@kawasaki-cn.ac.jp

神奈川の研究者紹介

氏　名	松田　有子（まつだ　ゆうこ）	
現　職	川崎市立看護大学 看護学部　成人看護学領域　准教授	
主な経歴	国際医療福祉大学大学院 医療福祉学研究科保健医療学専攻博士課程　修了 北里大学病院（看護師）、富士ゼロックス株式会社（保健師）、国際医療福祉大学（教員）を経て、現職。	
専攻分野・研究テーマ	専攻分野：救急・クリティカルケア看護 研究テーマ：クリティカルケア看護、産業保健、継続教育	
主要業績（これまで発表した著書、論文、行政委員の経験等）	主要な論文 ・松田有子，山邉悠太，大村和也，横溝郁美，荒木田美香子．救急救命士が期待する事業場および産業看護職の救急対応．健康開発（in press） ・Mikako Arakida, Tokiichiro Takahashi, Yuko Matsuda, et al. Investigation of the possibility of using an augmented reality-based endotracheal aspiration simulation tool for nursing education. Japan Journal of Nursing Science (http://doi.org/10.1111/jjns.12573) ・松田有子，山田智美．周麻酔期看護師教育への示唆：大学院生の視点から．日本手術医学会誌．2023;44(1):53-8. ・松田有子，根岸茂登美，大谷喜美江，荒木田美香子，東敏昭．産業看護職のための救急処置研修プログラムの評価．産業衛生学雑誌．2016;58(4):118-29.	
神奈川県との関わり	2021 年、神奈川県職員併任にて新型コロナウイルス感染症に対する「神奈川モデル」の自宅療養支援に携わった。	
メッセージ	保健、医療、福祉の在り方が変化しており、住み慣れた地域で自立した日常生活を営むためには、医療、介護、介護予防などの生活支援を総合的に受けることが重要になっています。このシステムを実現する上で、看護職の果たす役割は非常に大きいです。本学では、『医療機関はもとより地域の様々な場で活躍することができ、地域包括ケアシステムに資する人材』の養成を目指しています。そして、看護職を養成する看護大学は、地域の皆様を含む多職種と連携を図り、共に成長していく存在であると考えています。 また、2025 年度に大学院を開設するにあたり、看護学の研究やイノベーションにも寄与できるよう努めています。地域との連携を図り、看護の質の向上に貢献する活動を推進していきます。	
連 絡 先	川崎市立看護大学 看護学部 〒212-0054　神奈川県川崎市幸区小倉 4-30-1 https://www.kawasaki-cn.ac.jp/	

神奈川の研究者紹介

氏　名	宮崎　幸江（みやざき さちえ）	
現　職	上智大学短期大学部 英語科　教授	
主な経歴	英語教育修士（テンプル大学）、言語学博士（ミシガン州立大学）2006 年から現職	
専攻分野・研究テーマ	年少者日本語教育、バイリンガル教育、ことばとアイデンティティ、茶の湯と日本文化	
主要業績（これまで発表した著書、論文、行政委員の経験等）	著書 『日本に住む多文化の子どもと教育 ことばと文化のはざまで生きる 増補版』（2016）上智大学出版 論文 「サービスラーニングによる地域貢献-正課カリキュラム化までの経緯と課題」（2022）『上智大学短期大学部紀要 43』 「大学における言語文化的多様性：日本育ちの外国につながる大学生」（2021）坂本光代編『多様性を再考する：マジョリティに向けた多文化教育 Rethinking diversity: multicultural education for the majority』上智大学出版 所属学会 母語・継承語・バイリンガル教育（MHB）学会理事、日本語教育学会会員	
神奈川県との関わり	2021 年 神奈川県立地球市民かながわプラザ「日本語学習者応援プロジェクト」講師、KIF 2019 年「日本語学習者・支援者のための集い」講演 2018 年 かながわ教育フェスティバル「インクルーシブな学校・地域を目指して」講演	
メッセージ	日本で育つ外国につながる子どもの言語発達やアイデンティティを研究しています。上智大学短期大学部と秦野市の提携事業協定のもと、市内の小中学校へ学生を派遣し、日本語指導が必要な外国につながる児童生徒の日本語や教科学習支援を行うサービスラーニングを展開してきました。地域が持続可能な発展を続けるためにグローバル化は避けては通れません。一方「内なる国際化」の進行に伴い、外国につながる第二世代の子ども達の日本社会への統合も次の課題となることは必須です。外国につながる子どもだけでなく全ての子どもが「誰も取り残されることのない」包摂的で公正な社会づくりのために、大学は地域と連携しどのような貢献ができるかを考えています。	
連 絡 先	上智大学短期大学部 英語科 〒257-0005 神奈川県秦野市上大槻山王台 999 電話：0463-83-9331（代表）　E-mail：sa-miya@sophia.ac.jp	

神奈川の研究者紹介

氏　名	狩野　晶子（かの　あきこ）	
現　職	上智大学短期大学部　英語科　教授	
主な経歴	上智大学大学院外国語研究科応用言語学専攻博士前期課程修了。東京外国語大学大学院総合国際学研究科助教を経て 2009 年より上智短期大学英語科助教、2020 年より現職。	
専攻分野・研究テーマ	応用言語学、第二言語習得研究、外国語教育 児童期の英語教育、小学校英語教育	
主要業績（これまで発表した著書、論文、行政委員の経験等）	[小学校検定教科書]BLUE SKY elementary 5・6. 新興出版社啓林館 2020 年. [中学校検定教科書]BLUE SKY English Course 1・2・3. 新興出版社啓林館 2021 年. [共著書]『小学校外国語活動・外国語とっておきの言語活動レシピ』 加藤拓由, 狩野晶子, 東仁美, 明治図書出版,2021 年. [論文(共著)] “Clarifying Classroom Responsibilities in Elementary English Education” Akiko Kano, Atsuko Nakazawa, Timothy Gould. JALT Postconference Publication - Issue 2022.1; August 2023 2022(1),127-127. [論文(共著)] “Elementary Senka/specialized English teachers (SETs): Finding a place among the HRTs and ALTs” Akiko Kano & Takaaki Hiratsuka *Team Teachers in Japan*, 2023. Routledge,186-195 [論文]『これからの小学校英語のために—小学校英語の指導に求められる「力」を考える—』神奈川県教育文化研究所『所報』2019 年	
神奈川県との関わり	神奈川国際文化アカデミア　外部評価委員（2015-2020）。 神奈川各市での小学校の研究授業講師などを務めている。	
メッセージ	上智大学短期大学部では地域とのつながりを「サービスラーニング活動」という形で長年にわたって紡いできました。本学の学生たちは授業で学んだ専門性を活かして地域の小学校などで教育支援活動に携わり、その体験をまた学びに還元するカリキュラムの中で深く実践的に学びながら成長していきます。私は、児童英語教育の専門家の立場で地域の小学校で学生たちが行う英語授業を監修してきました。2023 年度からは秦野市内の全小学６年生が本学キャンパスを訪れて様々な英語のアクティビティに取り組み、言語活動を通して英語を学ぶプログラムを実施しています。短大生が英語を使う姿が、小学生にとっては身近なロールモデルとなり、子どもたちの学習への意欲や将来の自分の進路にも思いを馳せることにつながっているのを実感します。	
連 絡 先	上智大学短期大学部　英語科 〒257-0005 神奈川県秦野市上大槻山王台 999 電話：0463-83-9331（代表）　E-mail:akikano@sophia.ac.jp	

神奈川の研究者紹介

氏　名	加藤　美樹雄（かとう　みきお）
現　職	湘北短期大学　総合ビジネス・情報学科　教授
主な経歴	神奈川県立高校教諭、関東学園大学を経て、現職 横浜国立大学大学院国際社会科学研究科単位取得 東京地方税理士会所属税理士
専攻分野・研究テーマ	簿記学、会計学、ファイナンシャル・プランニング 会計教育、収益認識基準について研究
主要業績（これまで発表した著書、論文、行政委員の経験等）	著書 『基礎簿記テキスト』中央経済社、2020 年 『ゼロからスタート簿記入門』税務経理協会、2018 年 論文 「投資教育の一環としての会計教育」湘北短期大学『湘北紀要』第 40 号　2019 年５月 「新収益認識基準における経営者の会計的判断－建設業の会計的判断に焦点を当てた考察」日本経営管理学会『経営管理研究』第８号　2018 年７月 「収益認識時における仕訳と勘定科目の考察－本人か代理人かの判断を中心として」日本簿記学会『簿記研究』第１巻　2018 年４月 「初級段階の簿記・会計教育のアプローチ－財務諸表の作成者と利用者の視点からの検討」日本簿記学会年報第 29 号　2014 年７月 「現代会計の基礎概念と IFRS の会計教育」横浜国立大学『横浜国際社会科学研究』第 17 巻　2013 年１月
神奈川県との関わり	神奈川県立高校の教諭として、25 年勤務 神奈川県立厚木商業高等学校　学校運営協議会委員（現在）
メッセージ	私は、神奈川県で生まれ育ち、大学卒業後は神奈川県立高校の教員として働き始めました。仕事のスキルも専門知識も、25 年間の神奈川県職員の間に培いました。縁があって、現在は湘北短期大学の教員として勤務しておりますが、かつて勤務した高校からの入学者も多く、親近感をもって学生に接しながら、教鞭をとっております。 近年のわが国では、社会保障や金融投資などの面で、自己責任となる比重が高まってきています。そのような中、学生をはじめ、地域の方々に少しでも金融や会計に関することでお役に立つことができればと考えています。自分が生まれ育ち、社会人としての基礎を培った神奈川県に在住されている皆さまに、少しでも貢献していきたいと考えています。
連 絡 先	湘北短期大学 〒243-8501　神奈川県厚木市温水 428 電話：046-247-3131（代表）　E-mail：mi-kato@shohoku.ac.jp

神奈川の研究者紹介

氏　名	小笠原　大輔（おがさわら　だいすけ）	
現　職	湘北短期大学　保育学科　准教授	
主な経歴	横浜国立大学大学院教育学研究科修了。県内高校創作舞踊部コーチを長年務める。東京純心女子大学（現・東京純心大学）に着任。2014 年より現職。	
専攻分野・研究テーマ	専門は舞踊教育学。笑いとダンスに関する研究、新しい「側転」に関する研究、全国各地で「笑いとダンス」のワークショップを行っている。	
主要業績（これまで発表した著書、論文、行政委員の経験等）	【論文・執筆等】 ・『ダンス領域の指導実践上の課題解決のための方策』（2017）文部科学省委託研究 2016 年度武道等指導充実・資質向上支援事業（テーマ４：指導成果の検証）研究代表者：高橋和子 ・乳幼児による無作為的ユーモア行動（2020）『笑い学研究』27，日本笑い学会 ・『リラックス学級レク 75』（2022）共著／明治図書出版 ・『０～６歳児　「創造性を豊かにする」保育』（2023）共著／東洋館出版社 【ダンス・舞台関係】 ・コント＆ダンス公演（2008～現在）脚本・構成・演出・美術・映像・振付 ・第 71 回新潟県高等学校総合体育大会ダンスコンクール審査員（2018）	
神奈川県との関わり	神奈川県女子体育連盟主催かながわ保健体育・スポーツ学習会実技講習会ほか、厚木市、秦野市、横浜市など自治体主催の「笑いとダンスのワークショップ」講師。	
メッセージ	神奈川県にお住まいの皆様、こんにちは。私は身体表現を専門としておりますが、コントの脚本・演出も手掛け、「おもしろくおどる」ダンスの指導・実践・研究を日々行っております。（所属が保育学科ということもありますが）子どもの動きは本当に面白く、大人の動きと違って見ていて飽きることがありません。そんな私が、神奈川県の魅力を一つ挙げるなら、それは「自然が豊かなところ」です。悲しいことに我々、現代に生きる大人は既に「非自然化された“からだ”」になりつつあります。そんな大人たちにとって「THE 自然」である子どもは、ありがたい・あやかりたい存在であり、大人が子どもから受ける恩恵は計り知れません。「自然・子ども・笑い」をテーマに神奈川県と連携を図り、子どもも大人も笑って健やかに暮らせるような取り組みに貢献したいと思っております。よろしくお願いいたします。	
連　絡　先	湘北短期大学 〒243-8501 神奈川県厚木市温水 428 電話：046-247-3131（代表）　FAX：046-247-3667（代表）	

神奈川の研究者紹介

氏　名	渡辺　佑基（わたなべ　ゆうき）	
現　職	総合研究大学院大学，先端学術院統合進化科学コース/統合進化科学研究センター，教授	
主な経歴	東京大学農学生命科学研究科博士課程修了。日本学術振興会特別研究員、国立極地研究所助教、同准教授を経て現職。	
専攻分野・研究テーマ	生態学・海洋生物学	
主要業績（これまで発表した著書、論文、行政委員の経験等）	代表的な論文 ● Watanabe YY and Payne NL (2023) Thermal sensitivity of metabolic rate mirrors biogeographic differences between teleosts and elasmobranchs. ***Nature Communications*** 14:2054. ● Watanabe YY, Baranov EA, and Miyazaki N (2020) Ultrahigh foraging rates of Baikal seals make tiny endemic amphipods profitable in Lake Baikal. ***Proc Natl Acad Sci USA*** 117:31242-31248. ● Watanabe YY, Ito K, Kokubun N, and Takahashi A (2020) Foraging behavior links sea ice to breeding success in Antarctic penguins. ***Science Advances*** 6:eaba4828. 代表的な著書 ● 渡辺佑基（2019）「進化の法則は北極のサメが知っていた」（河出書房新社） ● 渡辺佑基（2014）「ペンギンが教えてくれた物理のはなし」（河出書房新社）（2020 年に文庫化）	
神奈川県との関わり	湘南国際村にある総合研究大学院大学のキャンパスで研究教育活動をしています。三浦半島の漁業者や遊漁船業者の方々の協力を得て、サメ類の生態調査を進めています。	
メッセージ	動物の体に記録計を取り付ける「バイオロギング」と呼ばれる手法を使い、様々な海洋動物（サメ、アザラシ等）の生態を調べています。2023 年４月に葉山の総合研究大学院大学に来たのですが、近くの相模湾で様々なサメ類が捕獲できることを初めて知りました。これは私にとってはうれしい驚きで、早速、こちらで野外調査を始めました。大型サメ類に記録計を取り付け、回遊パターンを調べるとともに、温暖化の影響を明らかにしたいと思っています。	
連 絡 先	研究室ウェブサイト： https://rcies.soken.ac.jp/labs/ywatanabe/ E-mail： watanabe_yuuki@soken.ac.jp	

神奈川の研究者紹介

氏　名	木下　充代（きのした　みちよ）	
現　職	総合研究大学院大学，先端学術院統合進化科学コース/統合進化科学研究センター，准教授	
主な経歴	横浜市立大学大学院卒業・学位取得後，日本学術振興会特別研究員，キャノンフェローを経て，2006 年総合研究大学院大学・助手に着任。その後、同大学助教，講師を経て 2019 年より准教授	
専攻分野・研究テーマ	神経行動学・生理行動学・視覚生態学	
主要業績（これまで発表した著書、論文、行政委員の経験等）	● Kinoshita M, Arikawa K. (2023) ‘Color’ Processing in the butterfly visual system. ***Trends in Neuroscience*** 46: 338-340. ● Kinoshita M. Stewart F.J. (2022) Cortical-like colour-encoding neurons in the mushroom body of a butterfly. ***Current Biology*** 32: 114-5 ● Céchetto C, Arikawa K, Kinoshita M. (2022) Motion-sensitive neurons activated by chromatic contrast in a butterfly visual system. ***Philosophical Transactions of The Royal Society B*** 377: 20210277 ● Kinoshita M. and Stewart F.J. (2020) Retinal organization and visual abilities for flower foraging in swallowtail butterflies. ***Current Opinion in Insect Science*** 42: 76-83. ● Kinoshita M, Stewart F.J., Ômura H. (2017) Multisensory integration in Lepidoptera: insight into flower-visitor interactions. ***Bioessays.*** 39: 1600086	
神奈川県との関わり	三浦半島の根元葉山町にある総合研究大学院大学を拠点に、里山や住宅街に多数生息するアゲハチョウ類の訪花行動を対象に、彼らの見ている世界の理解とその小さな脳の仕組みを明らかにする研究を行っています。	
メッセージ	我々ヒトに自然を感じさせてくれる身近な生き物の一つに昆虫がいます。彼らはヒトとは大きく違う見た目を持つ一方、その知覚能力や行動には目を見張るものがあり、古くから多くの研究者を惹きつけてきました。私の研究対象であるナミアゲハは、ヒトより鋭い色覚を持つため、色覚研究のモデル生物のひとつです。彼らの色覚能力は、その訪花戦略を通じて、植物の多様性や生態系の維持に寄与してきたと考えることができます。このような研究は、ヒト以外の生き物についての理解を深めるだけでなく、多様な生物が共存できる社会や生態系保全などを考える上で重要な知見を与えてくれます。	
連 絡 先	研究室ウェブサイト： https://sites.google.com/view/soken-biology-of-butterfly-j/ E-mail： kinoshita_michiyo@soken.ac.jp	

神奈川の大学博物館・美術館等の紹介

明治大学平和教育登戸研究所資料館

明治大学生田キャンパスは、旧日本陸軍の登戸研究所の跡地に立地している。登戸研究所は、陸軍の秘密戦（スパイ活動など）のための兵器・資材を研究・開発する機関であった。登戸研究所時代の建物を保存・活用して展示スペースとし、戦争の裏側で展開されていた秘密戦の実態について、ありのままに現代に伝えようという資料館である。

１　博物館の沿革

1980 年代に川崎市民の中で登戸研究所遺跡の保存運動が生まれ、登戸研究所関係者への聞き取り調査などが行われ、登戸研究所の実態解明が進んだ。川崎市民・研究所勤務者が遺跡の保存と資料館建設を明治大学に働きかけ、大学は平和教育・科学教育発信の拠点として位置付けて、研究所時代の建物１棟を保存・活用して、2010（平成 22）年３月に資料館を設立した。

２　博物館の特色

登戸研究所は、1937（昭和 12）年に電波兵器の実験場として生田の地に開設され、日中戦争の泥沼化に対応するために、1939（昭和 14）年に総合的な秘密戦研究機関として再編拡充された。

本資料館には５つの展示室がある。第１展示室では、ジオラマや航空写真などのパネル展示で登戸研究所設立の目的や組織の構成を示し、秘密のベールに包まれた研究所の全体像を明らかにしている。

第２展示室では、登戸研究所で開発された代表的兵器である「ふ号」＝「風船爆弾」（アメリカ本土攻撃のための気球）と電波兵器「く号」（電磁波で人員を殺傷しようとする兵器）などを模型や写真で示している。

第３展示室では、スパイが使用する毒物・薬物・時限爆弾・放火道具、相手国の食糧生産に打撃を与えるため穀物を枯らしたり、家畜を殺傷したりする細菌兵器などについて展示している。

第４展示室では、大戦中に大規模に実施された中国（蒋介石政権）紙幣の偽造とその撒布作戦について、当時製造された実物の偽札も交えて展示している。

第５展示室では、大戦末期、「本土決戦」に備えて、登戸研究所は長野県を中心とした地域に分散移転する。研究所本部とゲリラ戦のための兵器を製造する部門が移転した長野県伊那地方に残された遺跡・遺物について展示している。

３　地域文化との関わり

資料館は、大学にとって平和教育・科学教育の発信地であると同時に川崎市民の方々との地域連携の場であると位置付けられており、毎年の企画展・講演会などを通じて連携・協力を深めている。

４　ご利用案内

・開館時間　10:00～16:00
・休館日　日・月・火
・入館料　無料
・問合せ先
　HP：https://www.meiji.ac.jp/noborito/
　電話：044-934-7993
・交通アクセス　小田急線「生田駅」南口から新宿方向に徒歩約 12 分、あるいは小田急線「向ヶ丘遊園駅」北口から小田急バス「明大正門前」行で 20 分、終点下車。